

Community School

地域とともにある
学校づくりのために

茶内CSだより

令和元年度

コミュニティ・スクール1年目の活動が始まりました

今年度より浜中町の全校でコミュニティ・スクールが導入されました。茶内地区においても内村教育長より委員が任命され、その後、佐野校長と松村校長より学校の教育方針や内容についての説明がありました。2回目のコミスクでは、委員の皆様は茶内地区の子どもたちの「良い面」「課題となる面」について意見を交流し、目指す子どもの姿について検討をすることができました。



会 長	藤原 政光
副会長 事務局長	山口 寿宏
委 員	佐々木 栄 長岡 滋雄 中原 潤一 堀内 匡 (中学校P会長) 林 雅輝 (小学校P会長) 菅田実津留 (保育所P会長) 松村 浩二 (中学校校長) 佐野万由里 (小学校校長)
事務局員	山田 浩也 (中学校教頭) 伊藤 善一 (小学校教頭)

「茶内地区で目指す子どもの姿」を話し合うことを通して

子どもたちの現状について、話し合いました。一例ですが、次のような「良さ」「課題」があげられました。

- 明るさ ○やさしさ ○まとまり ○まじめ
- 仲の良さ ⇔ ▲友達の固定化
- 素直さ ⇔ ▲受け身、指示待ち

「目指す子どもの姿」については、上記のキーワードを踏まえたものを次回のコミスクで検討します。

さて、話し合いを進めていくと子どもたちの未来や環境についても話題が広がりました。子どもたち自身の力で新しい仕事を考えることができるような地域(町)である必要があること、地域に残りたいという思いをもてるようにすること等があげられました。

具体的には、「茶内八幡神社祭」が地域の良さを作り出しているという話になりました。地域の大人と子どもが1つになって取り組むことができること、上下関係や伝統的な技を伝授する良い機会であること、それぞれの立場で主体的に取り組んでいるということが着地点になりそうです。



初のコミスク企画「盆踊り練習」(7月23日)

第2回のコミスク会議の中で、コミスクとのかかわりで直ぐにできることはないかという話題になりました。

地域行事の「盆踊り大会」では、踊っている子どもが少ないという企画されている方の悩みがありました。参加者数が少ないからといって「盆踊り」の意味を考えると簡単に廃止することはできません。

しかし、学校の教育活動の中で、「盆踊り」を学習する時間はありません。先生方もそこに時間を割くことが難しいのが現状となっています。

そこで、今年度はコミスク企画として、小学生に『子ども盆踊り』を教える機会を設定することにしました。

藤原会長が講師の手配をすぐにしてくださり、初のコミスク企画を実現することができました。

橋北地区の井上秀子様が協力してくださいました。お陰様で子どもたちは、『子ども盆踊り』の踊り方を覚えることができました。



【茶内地区盆踊り大会】

日時 8月17日(土) 18:30~

場所 茶内ふれあい広場

【盆踊りの意味】

- ・お盆に戻ってきたご先祖様の霊を慰める
- ※現在は、地域交流や夏祭りのイベントとしての娯楽的な意味が強くなっていますが、今年の夏は、ご先祖様のために参加して踊ってみてはどうでしょうか。

茶内地区コミスク ~年間予定~

回	実施日	内容
第1回	6月3日(月) 19:30	学校経営方針の承認 令和元年度事業計画
第2回	7月11日(木) 19:30	熟議~目指す子どもの姿
第3回	9月10日(火) 19:30	熟議~学校と地域の関連で課題になっていること
第4回	12月 日() 11:30	給食試食 授業参観 等
第5回	2月 日() 19:30	成果と課題 次年度の方向性